

2011年5月10日

CML11-02

プレスリリース

教皇の代理としてサラ枢機卿来日

教皇庁開発援助促進評議会議長

ローマ教皇ベネディクト十六世は、「東日本大震災」で犠牲となった多くの方々の永遠の安息を祈り、いまだ苦しみの中にある被災者の皆さんとの精神的な連帯を目に見える形で表明するため、自身の代理として教皇庁開発援助促進評議会(注1)の議長であるロベール・サラ枢機卿(注2)を日本に派遣することを決定致しました。サラ枢機卿は、教皇庁開発援助促進評議会次長のモンセニョール・セグンド・テハド・ムニョス師を伴って、5月13日(金)午前、日本に到着。14日(木)早朝、東京から車で福島県に向かい、いわき湯本サポートステーションに到着。いわき市の被害状況などを視察します。その後東京に戻り、午後3時、東京大司教区カテドラル関口教会聖マリア大聖堂で、駐日教皇庁大使アルベルト・ボッターリ・デ・カステッロ大司教、日本カトリック司教協議会会長の池長潤大司教をはじめとする日本の13人の司教(被選司教1人含む)がささげる前教皇ヨハネ・パウロ二世の「列福感謝ミサ」に臨席します。ミサ終了後は、新幹線でもう一つの被災地である宮城県仙台市へ向かい、15日(日)9時半から仙台カテドラル元寺小路教会(仙台市青葉区本町1-2-12)でミサ(英語)を司式。午後は仙台教区内(仙台教区サポートセンター、塩釜教会、七ヶ浜、石巻教会、気仙沼海岸沿岸など)を視察します。16日(月)早朝、元寺小路教会小聖堂でミサをささげた後、再び仙台教区内の近隣被災地を視察し、午後には東京に戻り、17日(火)午前にローマに向けて日本を発つ予定です。バチカンの要職にあるサラ枢機卿の派遣は、ローマ教皇が東日本大震災による日本の人々の苦境にたいへん心を痛め、その苦しみを分かち合うと共に、一日も早い復興を強く求めている「証し」ともいうべきものです。なお、仙台でのサラ枢機卿のスケジュールにつきましては、訪問先のカトリック仙台教区本部(電話：022-222-7371)にご確認くださいようお願い致します。

注1 教皇庁開発援助促進評議会(Pontifical Council ‘Cor Unum’)

福音の精神に基づく教会の人道的援助を促進するため、ローマ教皇パウロ六世が1971年7月15日に設立した。世界各国の援助事業団体を指導し、必要地域の援助に協力する。‘Cor Unum’とはラテン語で「ひとつの心」の意。

注2 ロベール・サラ (Robert Sarah) 枢機卿

1945年6月15日、アフリカ・ギニアのウールース生まれ。65歳。1969年7月20日、司祭叙階。1979年8月13日、ローマ教皇ヨハネ・パウロ二世によりコナクリ大司教に任命、同年12月8日司教叙階。2010年10月7日、教皇ベネディクト十六世により教皇庁開発援助促進評議会議長に任命され、現在に到る。2010年11月20日、教皇ベネディクト十六世により枢機卿に親任。